信 毐 亲厅 層

2014年(平成26年) 1月12日 日曜日

スポーツ

18

大 150115 172103 172103 173101 131000 100000 5713310 はサーブ得点、失は失点。
点、プはプロック得点、サ 577621 チームフォルト=塩尻3、龍谷2

都市大塩尻 決勝届かず

-17から2度のタイムアウ 増えていたため、窪田は「ミット前半でサーブのミスが 20-22からはサーブやブロ ックなどで5連続得点した。 いコンビバレーを封じた。 人をしないようにと、 で一気に流れを失った。セ が全体的に緩くなってい しかし、第2セットは15 ブで相手を崩し、速

れた。 狙った挑戦は、昨年夏の全女子県勢初の決勝進出を ピスエース5本を含む攻め 弟1セットを奪う幸先の なかった」と敗戦を受け入 てなかった。うちが目指す 督は「やっぱり横綱には勝 国高校総体覇者にはね返さ いスタートを切った。サ レーの形を完成させられ ト勝ちの東九州龍谷から 準々決勝まで全てストレ 都市大塩尻の岡田監

涙の2年生エース 来年こそ

イライト

になりたい」。高相は1年後になりたい」。高相は1年後 いかないといけない。受けいかないといけない。受けいかないといけない。一新にステップアップした。「新 今年は準決勝進出と、 退だったが、昨年は3回戦、 初出場の一昨年は初戦敗

〇…都市大塩尻のコートに主将の牧田 はいなかった。9日に発熱し、10日にイ ンフルエンザと診断された。この日の朝 牧田から渡された手紙を各選手が読み、

「結束力は高まった」と岡田監督。しか し、吉報を届けることはできなかった。

ライトの宮下が12月下旬に左肩を脱臼 したため、控えだった牧田が今大会は初 戦から先発出場。幸い、宮下がプレーで

左膝を負傷し、秋の国体で中がエンジン全開。昨春に

がエンジン全開。昨春に第3セットからエース田

と胸を張った。

気持ちはどこよりも強い」

川主将は「勝ちたいという に進んだ九州文化学園の田

ム最多の23点を決めた。

インフルで不在

なったことでプロックに付

全体的にトスが高く

栄学園に逆転勝ちし、 勝負強さは圧巻だった。

揺さぶることができなかっ ス頼みになり、ブロックを 林理は「決まらないとエー だが、司令塔のセッター 発的なシンクロバレー」

だは、どこからでも速い攻 形は、どこからでも速い攻 形は、どこからでも速い攻

悔し涙に暮れた。 った。力が入り過ぎた」

結束高めた 主将の手紙

みたい」と笑顔で話した。

九州文化は大逆転

窮地に立たされてからの

きる状態まで回復し、岡田監督は「本来 のチームに戻った」と、主将不在の影響 を否定した。ただ、精神的な柱を欠いた 試合だった。

2年生エースの高相は「決2年生エースの高相は「決

宮下は「完璧なコンディションではな かったが、春(牧田)のためにも思い切 りプレーできた。来年はセンターコート に戻ってきて日本一を取ってほしい」と 後輩に思いを託した

第1セットこそ22-後の最後までバレーを楽し 向け「悔いのないように、最 引っ張る熊本主将は決勝に できた」とうなずいた。 徐々にうちの組織力を発揮 どころがなくて悩んだが、 の少ないチームで突っつき た。相原監督は「相手はミス の強打も交えて優位に攻め 以降は速攻を軸に左右から 攻守の要としてチー 東龍からも評価 〇…女子の東九州龍谷は 第2セッ 25で競 ムを

か をつかみ切れなかった。 セ "

タッカーの平均身長で約4

だ上回る東九州龍谷は、

人会注目セッター した速い攻撃とブロックで

・を起点に

ミスが少な (1

扇城学園 都市大塩尻-東九州龍谷 第2セット、ブロックに いく都市大塩尻・小林理(5)、窪田、宮嶋(6)

は右肩も痛める試練を乗り ■この記事・写真等は、信濃毎日新聞の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。